

平成22年度
第2回 羽黒地域審議会
会議録（概要）

期 日 ： 平成22年9月2日（木）

場 所 ： 羽黒庁舎3階 集会室

平成22年度 第2回 羽黒地域審議会会議録 (概要)

○日 時 平成22年9月2日(木) 13時30分～

○場 所 羽黒庁舎3階 集会室

○出席委員(順不同)

林 茂生、太谷 眞一、土岐 智子、岡部 紘、金野 信勇、寒河江健二、
山田 鉄哉、斎藤 一、山田 勝実、山口 平、本間 信一、天野 俊秀、
庄司 祐子、阿部 良一、梅津 久美

○欠席委員

加藤健次郎、島津 慈道、富樫 篤、星野 博、佐藤 繁明

○市出席者

羽黒庁舎 支所長 真田 昭良、次長兼総務課長 佐藤 茂
市民福祉課長 榎本 光男、健康福祉主幹 田村 廣実、産業課長 加藤 耕、
観光商工室長 五十嵐 満、建設環境課長 丸山 武、教育課長 五十嵐眞一、
総務課主査 佐藤 潤到、総務課係長 観世 安司、総務課主事 成沢あかね、
総務課主事 長瀬 陽彦、総務課主事 茂木 政信

本 所 地域活性化推進室長 吉住 光正、政策推進課長 高橋 健彦
政策推進課調整主任 渡部 幸一

○次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 報 告

(1) 平成22年度第1回地域審議会の議事録について

4 協 議

(1) 地域審議会協議テーマについて

『観光地羽黒の更なるステップアップを目指して』

① 観光資源を効果的に情報発信する体制づくり等について

② 月山公園線等観光アクセス道路の整備について

③ 手向宿坊街の景観について

④ 映画を活用した観光の振興について

⑤ 観光周遊ルート等の整備について

5 そ の 他

(1) 慶應義塾大学先端生命科学研究所出張出前講座

6 閉 会

※ 引き続き、松ヶ岡開墾場・庄内映画村オープンセットの現地研修、懇親会

【会議の概要】

1 開 会 (13時30分) 佐藤次長

2 あいさつ 寒河江会長

3 報 告

(1) 平成22年度第1回地域審議会の議事録について

佐藤次長が第1回羽黒地域審議会の議事録について報告
質疑等意見なし

4 協 議

(1) 地域審議会協議テーマについて

協議テーマ『観光地羽黒の更なるステップアップを目指して』を検討するにあたり、
①観光資源を効果的に情報発信する体制づくり等について、②月山公園線等観光アクセス道路の整備について、④映画を活用した観光の振興について、⑤観光周遊ルート等の整備については五十嵐観光商工室長が、③手向宿坊街の景観については佐藤次長が、それぞれ羽黒庁舎の取り組み状況について説明した。

(質疑応答)

(金野委員)

この審議会で出された意見は、集約して提言として羽黒庁舎、または鶴岡市に提言していくのか。あるいは良いものはすぐにどんどん取り入れていくのか、審議会の目的や開催回数などをあらためて教えていただきたい。

(佐藤次長)

地域審議会につきましては、前は、複数回行うということだけ申し上げたように思います。あらためて本所の企画部の資料等によって説明させていただきますが、概ね今日の審議会を含めて3回位を予定していただきたいと思います。本日は1回目で決めたテーマについて主に検討していただくということになりますが、次回以降につきましては、総合計画の実施計画の策定や、自治組織の現状について、また公共施設の現状、あるいは学区再編などについても、皆さまからご意見をいただきたいと考えております。

それから、この場でいただきましたご意見につきましては、議事録にまとめまして、今回はテーマが観光でありますので、羽黒地域や市全体の観光政策に反映させていくように取りまとめていきたいと考えています。

(金野委員)

4回位開催するという事。また、ここで何々を提言するというのではなく、出てきた意見を集約していくということについてはわかりました。

(司会：寒河江会長)

今の金野さんの質問のように、出た意見をどう活かすのか、この羽黒町だけで出た意見を取り入れて事業を進めていただけるのか。また、市に持って行って、市の計画、事業計画に活かしていくのか。

(天野委員)

新しく委員になったものですから、羽黒地域審議会の実施要綱等を拝見したところ、この審議会は、市長の諮問を受けて答申するというのが出ていたと思うのですが、諮問を受ければ答申を出さなければならない。今回の協議テーマというのは、諮問ということにあたるのかどうか、もし答申が必要であれば、なんらかのかたちにしなければならないのか、というのが一つ気になっていることでした。

(佐藤次長)

協議書の第3条を見ても、「審議会は合併に関わる次に掲げる事項について市長の諮問において審議し、答申するものとする」と書いてありますが、現在進めているのは「審議会は必要と認めるものについて市長に意見を述べることができる」ということも書いてありますので、こちらに基づいて審議会の中で、いろんなご意見を頂戴しながら、具体的な観光政策などに反映させていきたいと考えております。諮問とか提言とか答申とかになりますと重い話になりますが、そういうことよりも、もっと具体的に年度、年度の事業に反映させるような意見をいただいて、単年度の事業の中に取り込んでいきたいと考えております。

(司会：寒河江会長)

出た意見は、取り入れていただくようお願いしたいと思います。

(太谷委員)

資料8ページの「歴史的風致建造物・風致維持向上のための事業」とあるこの図面は、いつ頃作成して、今現在どれぐらい進んでいるのかお聞きしたいと思います。

(佐藤次長)

この図面は、平成20年度に作成したものです。ここにある歴史的風致維持向上計画につきましては、本所のほうの致道博物館を中心とした区域と、それから羽黒の手向地区ということで、二つの地域を想定しながら、今並行して調査に取りかかっております。この図面については、考えられる事業を図面に落としたもので、これを全て歴史的風致維持向上計画に関係づけて整備するには、国の歴史的まちづくり法に該当させて、国の補助事業の

採択の中で取り組むことになろうかと考えています。ただ、全体的にこれだけのことが考えられ得るということで出させていただいたものです。

(太谷委員)

補助金待ちという状態になっているのですか。

(佐藤次長)

そうですね。22年度、23年度に調査をして、計画を作って、なんとか歴史まちづくり法に該当させて、補助事業の中で取り組めれば良いのではないかと、考えているところです。

(司会：寒河江会長)

林さん、宿坊の景観づくりは、前から言われていますが、地元というか、あの辺の方々はどのようなことを思っているのですか？

(林委員)

私は、松原町に住んでいますが、なかなか手向地区の随神門の上のほうまで行く機会というのは少ないです。ただ、たまたま車で行ったりしますと、やはり景観の問題についてはかなり前からお話しはされていまして、いろいろ研究されている方々もいらっしやいまして、何年か前に公益文化大学の生徒が桜小路を中心にして、あそこの実態を調査して、将来的な構想を述べた研究会に参加させていただいた記憶がございます。

やはり、あのような研究を若い人たちが、自分が住んでいる地域の中の実態を若い感覚でいろいろ研究されたのは、大変良かったなあと感じておりましたし、あのような意見を、どのように広げていくかというのが問題ではないかと思えます。その時だけで研究した成果が終わってしまうということだと、ちょっと寂しい感じがします。ぜひ、あのような意見を取り上げて、具体的にどうしたらいいかということ、次々に一つずつ実践していくことが大事なのではないかなと思えます。

それから、昨日出羽三山神社の「秋の峰」修行が終わりまして、手向の随神門からずーっと池ノ仲まで、参加された方々が手向地区内を歩いた。そのときに、宿坊の方々が門前に家紋の入った大きい提灯を掲げて、「秋の峰」の帰ってくる方々を歓迎する。そういう風景を見ましたけれども、大変良かったなと思っております。ただ、地元の関係する人たちだけがそういうことに興味があって、わりあい一般の方々があまりいなかったなというふうに思います。従って、ああいう小さな行事でも、広く周知をしていただいて、羽黒町全体の方々が参加して見てもらうという、そういう行為も必要ではないかと感じた次第です。地元の人たちはそれなりに苦労したり、準備をしたりしているわけですので、それを地元の人たちだけでなく、もっと広く知らせて、知ってもらう、見てもらう、それが大事ではないかと思っております。

(土岐委員)

前は門前町と言えば、道者さんが歩きながらずっと随神門まで通っていたり、門構えがすごく素敵だったのですが、今は普段の生活に追われてみんなシャッター街のようになってしまっています。今ここで修復とか復元とか言っていますけれども、そういったところに、もっと早く手を打つべきではなかったのかと感じております。

(山口委員)

県道月山公園線についてですけれども、これは昨年の10月に調査したようですが、いろんな意見出ていますけれども、聞くところによればやっぱり幅が狭いということだそうです。これをなんとか、県道ですから県管轄だとは思いますが、鳥海山のような立派な道路にできないものでしょうか。毎年あちこち修理しながらのようですが、やはり良い道路があれば大型バスも来ますし、お客さんもたくさん来ますし、建設課長も含めてお伺いしたいと思います。

(丸山建設環境課長)

月山公園線につきましては、市の要望事項ということで、主に海道坂について要望してきましたけれども、昨年その他の場所も含めて現地調査もしたということで、その部分も含めた形に要望の内容を変更して県のほうにお願いしています。それで、観光室長からも説明があったように、現地にも来ていただいて見ているわけですので、そのへんについては年一回の文書での要望だけではなく、よくわかっているのかなと思っております。

(五十嵐室長)

この月山公園線の整備に関しましては、鶴岡市長を会長とします「出羽三山地区観光開発促進期成同盟会」が組織されておりまして、この会は、県選出の国会議員の先生方や地元の県議会議員の先生方が顧問、それから、県の関係機関等で役職につかれています方々が参与という形での組織となっているのですが、その会の中でも県の方へ要望活動をしておりますし、この月山公園線の整備については、力を入れているというのが現状です。ただ、実際予算的なこともありまして、実務者レベルの段階で話をしたところ、なかなかすぐに整備するということにはならない状況ですが、できるところから早急に整備してもらい、危険な箇所から優先順位をつけて整備していただきたいというのが、実務者レベルでの要望となっています。

(司会：寒河江会長)

予算も当然ありますが、土地の関係で、出羽三山神社の土地が結構あるように思います。

それで、土地を提供してくれるなどの状況はどんなものなのでしょうか。

(五十嵐室長)

この資料にもありますように、国有地と出羽三山神社用地がほとんどとなっております。また、今回の調査に神社の方からも参加いただき、現地を見ていただいているところです。境界が不明なところがありまして、県の方でも図面的に境界がわかるものがほしいということで、出羽三山神社と話しをしているようです。協力に関しては、神社の方からも理解してもらっています。

(梅津委員)

皆さんがお話しされた景観にも少し関わると思うのですが、2ページの1番の「小、中学校で観光（歴史・文化・自然等）案内の出前講座の実施など」と書かれていますが、うちも小学生の子どもがいて、夏休みの絵の宿題で、何か一つ出しなさいというのがあるのです。それで、この中から選びなさいというテーマが、「川を大切にしましょう」とか、「未来の絵」とか、「海の絵」とか、「地球温暖化の絵」とか、そういったものばかりなんです。せっかくこういった文化的な、ちょっと歩けば玉川寺もそうですし、手向だったら五重塔とか黄金堂とか、わざわざお金を払って見に来るような建物があるにもかかわらず、そういうのが宿題でないものだから、じっくり見に行くこともなく、絵に描いてみることもなく、というのがもったいないなと思っています。なので、町というか市主催でもいいですし、そういったテーマで、何かコンクールの募集してみたら、子供たちが関心を持ってくれるのではないかなあと思います。

それと、県単位とか全国単位で、俳句とか絵とかの募集もあるようで、学校から紙をもらうものですから、市のホームページとかで夏休み期間でなくても、秋の峰の修行を終えられた方が下りてくる様子を写真におさめたものとか、冬の情景であるとか、そういうのをホームページ上に載せて、それを見て書いても良いですよという感じで、コンクールで募集してみるとかすると、全国の子どもたちが、県内でも良いし、市内でも良いし、あまり見に来ないような子供たちも関心を持ってくれたりするし、たまたま見に来たその印象とか、家族で見に来た時に感じた印象とかを書いてみようと思ってくれる方々も出てくるのかなと思っています。細かいことですが、そういった取り組みもちょっとやってみると良いのかなと思いました。

(本間信一委員)

3ページの観光施設の観光客の推移ということで、平成**20**年から**21**年にかけて、十数万人ほど増えており、それぞれの観光地も増えているようなグラフになっていますが、この要因というのはなんですか。

(五十嵐室長)

3 ページの資料は、平成 21 年度までの年間の合計の数字を表したのですが、平成 21 年度はそれぞれ大きく増えているという状況です。この要因としましては、一番大きいのは昨年が「丑歳御縁年」だということで、羽黒山では 10 万人ほど増えていますし、月山では 7 万人ほど増えています。

それから、昨年は秋にシルバーウィークという連休がありまして、予想もしないほどの観光客が訪れたということもあります。あとは、高速道路の ETC 1,000 円ということもあり、それらの要因によりまして、昨年 21 年度は伸びているという状況になっております。ちなみに、次の表にもございますが、それでは今年はどうかということですが、7 月までの統計ですが、やはり昨年と比較すれば少ないですし、その前の年あたりと同じぐらいの数値になっている状況かと思えます。

(本間委員)

やはり羽黒山、月山、いわゆる出羽三山を抜きにした観光というのは、羽黒においては考えられないわけです。それを常に核としながらも、今お話しがあったように、「丑歳御縁年」がない年は少し観光客が落ちるのかなということで、このことは前々から言われておりますし、そうすると、観光は水物な部分もあるわけですがけれども、羽黒地域としては、昔から農業と観光と言われているように、やはり観光産業にまで育てばいいのですが、さらなるステップアップを目指した場合、そういった隔年での増減みたいなことがないように進めていく必要があるのではないかと思います。

ただ、先ほど土岐委員のほうから、宿坊街がいろんな面で寂しくなったというお話もあったわけですが、やはりその地域の核となる手向地区がいろんな面で活性化することが一番大事だと思います。そのために、隔年の差をできるだけ少なくするような方策も必要だと思いますし、また、誘客施設として映画村なんかも非常に賑わいを見せているわけで、それらをどう取り込んでいくか、先ほどからも言われていますように観光案内図だとか、やはり映画村に来ている人が必ず出羽三山にも行っているとも限らないわけですし、その逆もあるとグラフを見てもわかるようですので、観光客を両者に取り込まない手はないというふうに思います。

また、観光というのは、総合産業とも言われておりますので食べ物とか宿泊とか、いろんな面でその工夫が大事だと思います。観光に来る人というのは、勉強もしてくると思うし、その地域に何かないかという探究心が非常に強いように思うので、そうした時に、場所が良くわからない、ということになると、それじゃ帰るかということになる。それを引き止めて、滞在時間、滞在日数をできるだけ長くするような方策のためには、積極的に観光スポットなり観光地をきちっとわかるようにすることが大事だと思います。ある例を言いますと、食堂の人ですが、今までは昼に食べに来る人は少なかったが、最近は県外のお客さんが増えてきているということだそうです。そういう方々にとっては、観光というの

は非常に大事なんだなあと感じていると思います。直接感じている、直接ではない等、様々あるとは思いますが、できる限りその輪を広げていくことが活性化なり、強いて言えば雇用にもつながれば非常に良いかなと思っています。さらなるステップアップですので、そのへんまで、本当に地域の人達のおかげというか、大事にしなければならないというおもてなしの心にもつながっていくと思いますので、真剣に取り組んでいく必要があると思っています次第です。

(天野委員)

テーマとしての観光地羽黒の発展と言いましょうか、それをこれから考えようということですけども、観光地羽黒の目指す最終的な狙いがなんだというのがはっきりしているのか、していないのか。ただ観光と言ってもいろんな見方、切り口、また到達点があると思います。最終的に「お金がおちる町」というふうにするのか、それとも「人の交流で人的活性化をめざす」のか。そのどちらかによって、予算も動き方も違うのではないかと思います。ただ、言葉として観光、観光と言っても、具体的にお金がおちる観光を目指して経済効果がなければ意味がないわけですし、先ほどの手向の景観等も補助金があればということですけども、それも景観を修復するという部分でも、「見える景観」を直していこうという、もう時代劇のセットのようにしていこうと思えば、ものすごく莫大な予算がかかるだろうという気がする。もっと予算がかからなくてできることではないかとも思うのですが。

実は、先ほどアンケートを拝見して、今現在、羽黒のほうに来てくださる観光客のほとんどの方と言っても良いと思いますが、中高年の方がほとんどで大半を占めている。現役を終わって、少し時間にゆとりができて、夫婦で、家族でゆっくりまわろうか、高速が安くなったということもあるでしょうし、前に休暇村の支配人からこんな話を聞いたことがあります。休暇村で出す夕食には、羽黒膳とか非常に豪華なご馳走があるわけですけども、それがあまり売れない。何日も東北だったら東北を転々と何泊もしながら旅をする中高年の人たちは、毎日そんなご馳走を食べていたら体を悪くするというので、普通の定食で良いという人もだいぶ増えてきて、あまり利益が上がらないというような話を聞いたことがあります。それは、今の健康志向という部分もあります。それで、少し思い出したのが、イギリスが発祥で今日本にも入ってきていて、全国本部もできている「フットパス」という運動ですね。日本語でいうと「小道を歩く」と訳せるのですが、小道は表通りから一步入った裏道という意味もありますけど、イギリスでは、全国にそういったコースがいくつもあって、日本で言うウォーキングみたいにただ歩くだけではなくて、歩いている最中、自分の牧場の中を通らせてあげてそこで話をしたり、お茶を飲ませたり。ようするに、人と人との交流が生まれる、そういう歩き方、観光のしかた。そういう部分というものがあるのではないかと。というのも、先日、景観回廊という県の事業で、専門員たちがいろんな写真を撮っていた中に、私どもがあまり気付かない部分の写真が何枚もあった。仙道

から川代山に抜ける道路、細い路地で、南部道路と交差するところから松ヶ岡のほうを見たときに、林に囲まれて道がずっと下の方に伸びている。あんなところを写真に撮っていた。地元にいるとなかなか良さというのが見えないのですが、いわゆる都会に住んでいる人たちがこの日本の原風景がある山形の田園地帯で、良いものを、こういうところが見たい、知りたい、歩いてみたい、そんなものをもっといくつものコースを開拓して、先ほどの観光ガイドブック、案内ブックに載せたらどうか。そこの人たちとのふれあいを楽しみながら健康ウォークをする、そしてちょっと小物を買ったり、いろいろついでにといい、その時にお金が二次的におちていくというふうな、そういう見方、切り込み方もあるのではないかと思います。手向なら手向だけではなくて、いくつも都会から来た人を連れて行ってあげると喜ぶような、わぁっという場所が羽黒にはいっぱいある。そういうところを絡めながら、一つのセットと言いますか、もっともっと来ていただくためにやったらどうか。見える観光、心象と言いましょか、来た方が心地良くなると言いましょか、人との交流で楽しくなる、あったかくなる、そういう観光というのが、これから先求められているのではないかなと。わっと団体で来て、わっとお金を使ってというのはもう少し通り過ぎて、峠を越えたように思います。

(山田委員)

うち(松ヶ岡)のほうも、この資料を見ると、集客人数が最下位の方ですけども、準観光地でありまして、世間の人には「癒しの観光地」と言っているそうですが、「癒しの観光地」というのはなかなかお金をいっぱい持ってくる人はいない。絵を描く人、写真を撮る人、俳句を詠む人、その辺をぶらぶらする人、そんな感じで、定年後に母ちゃんと一緒にというような、自家用車で来るというのがよくある。若い人というよりは中年から年配の人が、随分多く来られてはいるようです。やはり、先ほど天野さんも言っていたように、うちのほうで山大の出川先生の地元学というものを受け入れまして、まだ結果というものは出ていませんが、我々が常日頃、普通に思っていることが、他の人から見ると「これはすばらしい」とか、そういうものを発見したり、これは売り物になるというようなものを発見したり、そういう感じの学問だそうで、学生が何人か来て、いろんなことを調査してくれておりますが。やはりそういう地元にいる人が何気ないような、そういうものが逆に都会の人から見ると、それがめずらしいと。そんなことがあるのかなと、近頃特に思っています。

7月にテレビの「珍百景」の取材が来まして、ウド鈴木さんとあき竹城さんが私の家で、酒飲みをさせてくれと頼まれて、「わかった」と了解して家に帰ったら、母ちゃんから「何でそんなものを受け入れたんだ」と叱られたのですが、なんとか親父の顔を立てて準備してくれたようですが、そんな時に、酒の肴にさまざま季節のものやら何やら準備してくれと言われたのですが、やっぱりあぁいった人たちが食べて「これはうまい」というものは、その時の季節に採れるものだとか、昔のように、棒鱈を煮たら「これうめ」なんていう感

じだとか。なかなか肉だとか、地元ではご馳走のつもりが、あんまりウケなかつたりとか。そんなことで、食べ物というのも、昔、我々が若い頃、鶴岡に食い放題というのが随分ありまして、昼飯を食わないで行こうとか、夕飯食わないで腹をすかせて行こうという感じで、そういう時代もあったわけですが、今焼肉だといっても食べ放題に誰も行かなくなった感じで。そういう食べ物の流行り廃りだとか、その時代に合うように研究していかないと、自分では良いつもりでもあんまり流行らなかつたりして、そこらへんを研究したり、都会の人というか、こういった農村風景を見たことがない人に風景を見てもらう、そういったことも含めて、「もてなし」の勉強のしかたというか、そういったものももっとも必要なのかなと、そんなふうに思います。

近頃、うちのほうにも「映画のオープンセットは、どっちに行ったら良い？」とよく聞かれます。やはり我々もちよいちよいそういう場面に出くわすと、丁寧に教えるというのが面倒くさくなってきて。まあ、聞く人なんかは、トラクターを動かしている時でも、田植え機動かしている時でも、お構いなしに、田植え機が到着する所で待っている。何か大事な用事があるのかなと思ったら、「映画村、どっちに行くんですか？」と聞かれる。そんなことで止めるなど思う。なんというか、そういう我々が常日頃、あまりにもそういうことを軽く考えている。もてなしの気持ちというか、もてなしのしかたというか。そういったことも、農作業をしている人たちもなんらかの「もてなしの気持ち」を持たなければならないのかなと。羽黒全域、鶴岡全域の観光といった場合には。おらほの人たちもみんな面倒くさくなって、車止まると「あっち、あっち」としかしゃべらない。そういう人やら、知らんぷりする人やら、あそこの観光地というのは「やさしいごごだっけ」とか「親切だっけ」とか、そういったことを田舎の人間というのは、上手に表せないというか。そこらへん、あったほうが良いのかなと思う。特に農繁期なんかそういう場面に出くわした時に、そこらへんあったほうが良いのかなと、つくづく思う。そこらへんは、田舎の人はへたくそだから。もう少し上手になって、「気持ち良いところだっけ」とか「また行ってみたい」とか「あの父ちゃん、あそこにてまだ農作業したかな」とか。やはり「もてなしの気持ち」を持たなければと思う。

ちょっと思いついたことを話してみました。

(阿部委員)

一回目の審議会を休ませていただきましたので、どういう形なのかわからなくて、今いろいろお話を聞いていましたが、なんとか活性化の形をみんなで目指そうということだと思いますけれども、日本、世界で出てくる名前としては、羽黒町とか出羽三山なのかと思っています。

それと、どうしても神社なもので、そういった話になってしまうかもしれませんが、ここは門前町ということで、ずっと残ってきた有形、無形のものが今ここにあって、全国、外国から人が来られるのだろうなど。これは、歴史が物語っているわけですが、これもま

た、今後ずっと残していくものだと思っております。もちろん、文化財の指定を受けているものは、そうだと思いますが、無形のものというのは、どうしても人間が変われば変わっていくのかもしれませんが、**1,100**年以上と言いますけれども、そういったものが今ここにあるということに対して、人は意義を感じて来られるのだろうと思っております。そうしますと、やはりなかなか公には言えないのかもしれませんが、神様、仏様というのはちょっと離れてしまうと、違うところに行ってしまう可能性もあるのかなと、神主として勝手に思ってしまうのですが。そういった意味で、我々地元にいる者として、本当に神様、仏様がそういうものであるということを、一人一人が思ってもらえるかどうかということは、他所から来た人に対する、先ほどお話しに出ましたように、対し方と言いましょか、そういうところに出してしまうのかなぁと思います。手向の住民も、決してそういった場所で生業としていない人もたくさんいるわけですので、仕事をされたり、残念ながら離れられたり、そういう人がさまざまいるわけですが、そういったところで、生業としていない人は、強く思ってしまうのでしょうけど、そうでない人は、たまたま住んでいる場所だということも当然あってしまうのかなぁと思います。

そういったところで、この「小、中学校の観光案内の出前講座の実施」、それとまた「案内ガイドブックの作成」ということで、これは住民向けに考えられたこと。これは、我々住民一人ひとりがやはり、そういったものに魅力を感じて、他所の人にそれぞれの立場でお迎えをしたらいいのではないかと。それがまた、人の営みにつながっていけばということかなぁと思っております。そういった意味で、やはりこういったものを利用していただいて、例えばガイドブックなどを配るだけではなくて、そういった講座などで話しをしてあげるとか、今時ですから英語を話せるガイドさんもいらっしゃると思えますけれども、人によっては、英語の出前講座などで教えてあげて、店のおばちゃんが突然英語を話して案内をするというのは来た人からしてみれば、大変うれしいことだと思ったりもしますし、受け皿の裾野の広がりというものが、各所でそうなってくればと思います。

それと、ここに観光客の推移が出ておりますが、我々神社として、細かい数字ではないのですが、これとまたちょっと違うと言いますか、そういったことがありますのでご報告申し上げます。去年は、丑歳ということで、お出でくださった方が大変多かったなと思っておりますけれども、実は月山はほとんど変わらなかったのかなと。これは、天候の影響を非常に受ける場所ですから、そういったことだと思います。湯殿山に関しましては、**6**割ぐらい多かったです。これは、羽黒とは直接関係がないかもしれませんが、「丑歳御縁年」と言いますのは正確には湯殿山が御縁年ということにして、羽黒山が午で、月山が兔と。ただ、全国的には丑歳、丑歳ということになっておりますが、そういったことです。羽黒山は、**3**割ぐらいかなと。神社でつかんでいる数字では、そのようだったと思います。

それと、お出でくださった方々を羽黒で見ていると、残念ながら昔からの丑歳の信仰という**12**年に一回の方もいたのですが、やはり観光客の方のほうが圧倒的に多かったなというふうに思いました。そうした時には、昔からの丑歳信仰というのがあったかもしれま

せんが、昨年に関してはやはり高速道路かなと。それと去年は映画とかテレビとか。またミシュランの観光ガイド、これも春先ぐらいに良い話題として出てきましたので、山形県としても去年はいい年だったのではないかなと思います。出羽三山だけでなく、米沢だとか、酒田だとか、そういったところも含めて、結構山形県自体観光客が多かった年だったのではないかと思います。

それと、今年は先ほど聞きますと、ほとんど一昨年並みということで、お山にいますと、連休のあたりはいつもよりも人が来たような気がしまして、要因としては高速道路ぐらいかなという感想でした。地元の良い話題というのは、今年は残念ながらあまり外向いて、大きなものはなかったかなと。残っているのは、高速道路が安いぐらいしかないということを考えますと、やはり大きな影響があるのだと。それとまた、山形自動車道が無料になった影響も。具体的にはわかりませんが、それもなにかしら数字で出てくるのかもしれませんが、そういったことから見ると、さっき信仰の山と申しましたけれども、それだけでない方々が来る要素というのは、考えられないことが出てきたのかなと思います。数字だけの話としては、そう思いました。それが一つの材料として、今後何かにつなげていく材料になれば良いかなと、神社としても今までにない動きでしたので、そのように思っているところです。

また、**12**年後には丑歳が巡ってまいりますから、なにかしら今回の要素を次につなげたいと思っております。そのようなことで、やはり外を向いては出羽三山ということかなと思います。

それから、羽黒だけではなくて、月山を中心にして **360** 度のお山になりますので、羽黒だの行政にしましても、**360** 度あるわけですので、そこらへんともなにかしら協力しながらというのが、他所から来た人に関しては大変わかりやすいのではないかなと。羽黒だけではなく、朝日でも、西川だけでもなく、そういったことも頭に置きながら、お互いに携えるところは携えながら、それぞれ独自の努力はもちろんでしょうけれども、そういったものもありますと、他所から来た人にしてみればあまり温度差のない出羽三山ということになるのかなと思います。

(庄司委員)

鶴岡市羽黒町というふうになりましたけども、今日こうやって参加させてもらって、観光地羽黒ということで、羽黒にスポットライトをあてていただくというのは、正直すごくうれしいというか、そんな気持ちがしております。

今トークテーマを見させていただいて、いくつかお話を聞いていたのですが、うちもお店をやっている関係で、「インターネットの検索」ということを外部の人がすごくおっしゃいます。私は、インターネットが不得意なのですが、検索に引がかかることが大事なんだなあというのが、どうもあるみたいで、役場の皆さんは得意だと思うのですが、それを知った時に、私はすごく羽黒が好きなので羽黒、羽黒と思っているのですが、羽黒なのか、

月山なのか、庄内なのか、鶴岡なのか、出羽なのか、出羽三山なのか、そういったことが一つあると思うのです。ですから、例えばそれを、他のページを見させていただいても、観光で羽黒に来られる方は首都圏の方が多くのように思われますし、近隣も多いうように思われますが、秋田が少ない気がします。そうすると、秋田の方にもっと来ていただきたいなあと思ったときに、**1泊2日**でも、日帰りでも秋田からなら簡単に来られます。ですので、もう少し協力して売り込むことができないかとすごく考えています。これに対して、みなさまに教えていただきたいのですけれども、私の店はナポリピッツァに特化したイタリアンなんですね。そのピッツァというのが、みなさんなかなか言えない。ほとんどピザですよ。私も、リニューアルする前はずっとピザだと思っていました。そういうふうにくら正しくても、言えなくては検索では引っかからない。それで、この観光の話とも絡んでいるのですが、着地型観光ということで、うちの店でずっと前からピッツァづくり体験をしまして。**JTB**と角川書店でやっている「旅の発見」というサイトがあるのですが、そこに載せてみなさいということでアドバイスをいただいた時に、検索をするサイトがあるみたいで、それで調べたら「ピッツァは引っかからないよ」。なぜなら、ピッツァは使わないから。ピザは引っかかる。そのとき「鶴岡 ピザ」を検索に入れたと思う。それを私はすごく大事なことだなあと思って。例えば、私たちが愛着を持って出羽三山、出羽三山とっていたり、羽黒の休暇村とか羽黒とかとっていることと、来られるお客様とは違いがあるのかもしれないというところを、ぜひ行政の方たちから援助をいただいて、売りたいものをはっきりと売ることができるようにするには言葉としてどうなんだろうか、ということをちょっと思っております。

例えば、映画村が羽黒映画村だったら、よかったなあとは思います。残念ながら、庄内映画村なので、少しややこしいですね。庄内映画村に皆さん来られて、電話とかでこの近くなので行って見て下さいと言うと、お客様がそこで頭がくるっと回ってわからなくなる。「私のお店は羽黒町にあります。庄内映画村というのは、羽黒町にある映画村なんですよ」とそこまで丁寧に言うとうわかる。今回の誘導案内板の設置もそうですが、例えば、映画村の平野さんの字がありますよね。羽黒に関しては、他の建物もなにげに平野さんの字で書いてもらうとか。そういうことで少しわかりやすくなるのかなあ。また、ここにガイドブックと書いてあって、これも非常にいいなあと思っているのですが、ガイドブックを作るときに、イラストとか字を入れるときに平野さんをお願いするとか。ということで、無理やりでもいいから、一番伸びている映画村とくっつけてやってしまうのもおもしろいのかなとは思います。

観光案内板では、秋田に行ってすごいと思うのは、どここの役場に行くと、非常に大きな看板があって、その看板に町内のことが書いてある。すると、案内所はわからなくても役場に行けば町内のことがわかる。この羽黒庁舎は、ちょうど羽黒街道に面していますから、壁を利用したりして大きな地図を描いて、映画村はどこにありますよとか、お蕎麦屋とか、できればうちも描いてもらいたいですけれども、そのような、こちらに来たときに、

観光地と言われているところがわかるような看板があったらいいなと思います。また、小さな案内所を一坪でも設置して、人をローテーションでも良いから配置して、羽黒の一番端のところから入ってきたときに、その方が交代でも良いから座っているだとか、パンフレットがありますよだとか、今は携帯が使えるので、問合せのときは携帯にかけてくださいとか、着信はただなので、相手からかけていただいて、パンフだけでなく言葉で案内するようなものがあったら、かなり国際都市なみのフォローができるのではないかと思います。

(岡部委員)

資料にアンケートがありますけども、その内容を見ますと、お客さんから見れば、まずまず良いという評価をされていると思います。その中で今もお話がありましたけれども、案内看板のことですが、私も看板については、やはりもっと大きな看板にしたほうが良いのではないかなと感じています。映画村にしても、それから出羽三山にしても。出羽三山の案内では、三ツ橋と狩谷のところに鳥居があって、その中に山伏の写真が載っているものがございましてけれども、鳥居は非常にきれいになっておりますが、中の山伏の絵がなんか「すかし」みたいになって、非常に古臭いような状態になっている。これは皆さんも感じているところではないかと思いますが。

それから、看板をみることで、これから行こうとしている場所を思って、ワクワクしながら、現地まで看板を見ながら行くのも楽しみなのではないかなと、感じたところです。

それから、上川代から月山牧場に行く道路ができていますけれども、この間、そこを通っていきますと、ひまわり畑があったんです。高原牧場に近いところですけども、だいぶ広い畑になっている。これは車を止めて見ても、大変楽しめる規模ではないかなと見たのですけれども、あいにく私が行ったときには、花が終わって、しぼんだような時期であったので残念でしたが、やはり今見頃だとか、今ここにこんなものがあるといった、一時的な看板があれば、例えば映画村から月山牧場に行くような人がいれば、ひまわり畑もあるんだ、とイメージもできたのではないかと思います。そのようなことで、特に地域の人たちに対して、広報でも使って、羽黒版でも使って、月山牧場に行くところにひまわり畑があるんだ、というような、放牧した牛や羊を見ながらご覧になってくださいとか、そんな案内も良かったのではないかと思います。

それから、今井美術館ですけども、あそこは今バイパスができて大変に良い場所になったわけですが、入ってみようとした場合、非常に入りにくい環境にあるのではないかなと感じております。そのへんについてですが、これからも個人で管理していくのか、あるいは、地域や行政等も入れながら、美術館というものを一緒に管理などをしていくのか、そのへんを少しお聞きしたいと思います。

(五十嵐室長)

最後の質問で、今井美術館の環境整備ということでお話しありましたが、この今井美術館に関しては、個人で経営していることから、維持管理は個人ということになっています。

環境整備に関しましては、前回の広瀬地区地域懇談会の時も、入り口周辺の草を刈ってもらえないかと意見が出されましたこともあり、美術館が今どういう状況にあるのか現場を見まして、美術館の方にお話しをさせていただいたのですが、入り口のところの畑の地権者が一般の人になっているものですから、その方に入り口の草を刈ってもらうようお願いできないか、また、美術館側で刈ってもらえないか、というようなお話しはさせていただいたところです。行政として、こちらで刈るというのではなくて、状況を見ながら環境整備のお願いをしているというのが現状です。

(司会：寒河江会長)

それではまだ意見があるようですが、時間になりましたので、次回にお願いして協議を終了しまして、議長の座を下ろさせていただきます。ありがとうございました。

(佐藤次長)

ありがとうございました。今回の審議につきましても議事録を作成しまして皆様にお届けさせていただきます。それをご覧いただいて、3回目の審議会でも再度このテーマについて協議していただきたいと思います。

それでは、その他に入りまして、慶應義塾大学先端生命科学研究所の出張出前講座を行なっていきますのでよろしくお願いします。

5 その他

(1) 慶應義塾大学先端生命科学研究所出張出前講座

政策推進課の高橋課長が慶應義塾大学先端生命科学研究所の紹介を兼ねて出前講座の挨拶を行い、その後、政策推進課の渡部調整主任が、プロジェクターを使用し慶應義塾大学先端生命科学研究所が行っている研究内容やその成果等について説明した。

6 閉 会 (15時20分) 佐藤次長

… 引き続き現地研修と懇親会

- ・ 現地研修① 「松ヶ岡開墾場」 (15時40分～16時00分)
- ・ 現地研修② 「庄内映画村オープンセット」 (16時20分～17時30分)
- ・ 懇 親 会 「ゆぽか」 (18時00分～)